

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三好事業所立体駐車場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県みよし市三好町東山300番地 他16筆	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年6月 予定	評価の実施日	2021年1月19日
敷地面積	3,773 m ²	作成者	大塚 俊一郎
建築面積	2,599 m ²	確認日	2021年1月19日
延床面積	5,145 m ²	確認者	大塚 俊一郎



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	N.A	③敷地内の緑化	2.0
②資源の有効活用	2.6	④地域材の活用	1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

24.9 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	評価点	評価点			
Q 建築物の環境品質										2.6	
Q1 室内環境										-	
1 音環境										-	
1.1 室内騒音レベル					3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音										-	
1 開口部遮音性能					-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能					-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音										-	
2 温熱環境										-	
2.1 室温制御										-	
1 室温					3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能					3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御										3.0	
2.3 空調方式										3.0	
3 光・視環境										-	
3.1 昼光利用										-	
1 昼光率					3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口					-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備					3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策										-	
1 昼光制御					5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度										3.0	
3.4 照明制御										3.0	
4 空気質環境										-	
4.1 発生源対策										-	
1 化学汚染物質					3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気										-	
1 換気量					3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能					3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理										-	
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										0.43	
1 機能性										-	
1.1 機能性・使いやすさ										-	
1 広さ・収納性					3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										-	
1 広さ感・景観(天井高)					3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画					3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										0.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振										0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										0.3	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.50	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②				-	1.0	0.50	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性										0.1	
1 空調・換気設備					3.0	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	-	-	-	-	-	
3 電気設備					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
5 通信・情報設備					3.0	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	2.8	0.48	-	-	-	2.8
3.1 空間のゆとり				0.3	2.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				-	1.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②	-	-	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	-	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	1.00	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	-	-	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	-	-	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	-	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=対象外	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.6
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.4	0.63	-	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			②	-	3.0	0.10	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自	-	3.0	0.34	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.28	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.28	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	-	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	1.00	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-	-	
3 冷媒				3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	2.4
1 地球温暖化への配慮			①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	2.1	0.50	-	-	-	2.1
2.1 大気汚染防止				-	-	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.67	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.3	2.3	0.33	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	-	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.33	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	2.8	0.50	-	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	2.3	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	2.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:24.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	工場敷地内の専用立体駐車場なので、近隣の住宅に対して配慮を行う。また可能な限りの外構緑化に努める。
Q1 室内環境	駐車場利用車両のタイヤ音の発生をおさえるため、床仕上はくし引きとしている。また、ヘッドライトの光が住宅側にもれにくい様に1面のみ腰壁を設けている。
Q2 サービス性能	耐候性のある材料・仕上を採用している。 駐車場のみの用途なので建築基準法に定められた耐震性を有し、標準的な耐年数を基準としている。また工場専用の立体駐車場として、適正な階高・荷重・空間を設定している。
Q3 室外環境(敷地内)	可能な限り外構緑化を設け、敷地全体で緑化維持管理を行う。 近隣への配慮として境界沿いに植栽帯を設けている。
LR1 エネルギー	西側(住宅地域側)に腰壁を設けているが、他の3方はフェンス等解放性の高い仕上としている。
LR2 資源・マテリアル	主要構造躯体の鉄骨は強度の高い材料を採用することを心掛け、鉄骨の使用量の削減を目指している。
LR3 敷地外環境	騒音規制法の基準以下に抑えている。また近隣側の外装に鋼板パネルを設け、騒音・光害を抑制するようにしている。
その他	特になし